

でんち

社団法人 電池工業会

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011

東京都港区芝公園三丁目5番8号

機械振興会館内

電話 (03) 3434-0261 (代)

ホームページ <http://www.baj.or.jp/>

ご意見・お問い合わせ <http://www.baj.or.jp/contact/>

発行人 杉野一夫

平成18年1月1日



平成18年・年頭のご挨拶

社団法人 電池工業会

会長 石田 徹

新年あけましておめでとうございます。
平成18年の新春を迎えるにあたり一言ご挨拶
申し上げます

さて、昨年は国内外でさまざまな出来事がありました
ましたが、日本国内の景気を見ますと、株価の5年振り
の高値など、全体的には回復基調で、上り坂の状態
を維持しておりますが、業種や地域により差がある
ことも事実で、楽観は許せない局面にあると思われ
ます。

景気の先行きは、当面製造業での需要増は見込め
るものの、原材料の高騰や品薄状態が続いており、



多くのマイナス要因も見受けられ、堅調な回復とは
いえない状況です。

電池業界におきましても、一昨年より原材料の高
騰が続いており、厳しい経営状況からの脱却が難し
いものと予想されます。

平成17年1月から11月までの電池の販売状況を見ま
すと、夏場以降の回復もあって数量、金額とも前年

並みとなっております。

商品別に見てみますと、二次電池分野では、自動車用鉛蓄電池は、数量は前年並みですが、小型車用電池の伸びが大きかったため、金額では、前年比97%と前年実績を少し下回っております。

また、小形二次電池では、リチウムイオン電池が数量で前年比112%と前年を上回りましたが、OEMの不調や価格下落に伴い、金額では前年並みであります。また、ニカド電池は引き続き厳しい状況となっております。ニッケル水素電池は、ハイブリッド電気自動車用が好調で、数量、金額とも前年を上回っております。二次電池全体では、数量で前年比105%、金額で101%と前年を若干上回っております。

一方、一次電池分野では、ニッケル系一次電池が健闘しておりますが、マンガン乾電池やアルカリ乾電池は、数量、金額とも前年割れとなっております。一次電池全体では、数量、金額とも前年比97%となっております。

さて、電池工業会の主要な取組みとしては、今後の業界が向かうべき方向を見てみますと再資源化や環境問題が重要課題と考えております。本年度は次の点について事業展開をはかる所存でございます。

第一は「**再資源化に関する活動**」です。

本年度は、使用済み自動車用鉛蓄電池の回収、再資源化の新システムを構築することが当面の最重要課題と考えております。

現在、関係省庁のご指導のもと、システム構築に鋭意努力中ではありますが、多くの関係団体との連携に時間を要し、関係各位には大変ご心配をおかけしております。今後は、一昨年電池工業会より分離・独立いたしました、回収システムを運営する別法人の「有限責任中間法人 鉛蓄電池再資源化協会（SBRA）」を中心に、新システムの構築に最大の努力を注いで参りたいと思います。

また、小形二次電池の再資源化に関しましては、「有限責任中間法人 JBRC」が自主回収を積極的に進めており、お陰様をもちまして、順調に推移してお

ります。

さらに、一次電池の回収につきましては、どうあるべきかの研究を開始しております。

これらの電池の回収・リサイクルを遂行していくキー・ワードは「**Compliance**」です。『法遵守は当然のこと、お客様や社会から認めていただけること』を基本方針と考えております。

第二は「**国際化に関する活動**」です。

モバイル機器の増大や、社会の情報化の進展によって、電池の役割はますます重要になってまいりましたが、電池に対する規制も厳しくなっております。

特に、本年7月から、欧州において電気製品への特定化学物質の使用禁止（RoHS指令）が発効されます。

また、電池分野では、「欧州電池指令」が改訂の最終局面にあります。『全電池の回収』、『ニカド電池は特定除外用途を除き販売禁止』などの規制の動きはさらに厳しくなります。さらに、これらの波は全世界に強く影響を与えることが予測され、当然のことながら、日本の電池メーカーにとっても重大な問題になると考えております。

さらに、日本の電池業界は、グローバル化が進展する中で、最先端のリチウムイオン電池を含め、生産拠点の海外移転が進行しております。今後もこのような状況が続くと、完全に日本国内は空洞化してしまいます。これを防ぐと同時に、海外メーカー製品に打ち勝つために、日本国内でなければ生産できない「特長のある電池」や「マネのできない新しい生産技術」の開発が必要です。これに向かって、電池工業会の会員会社が、切磋琢磨して取組んでまいりたいと考えております。

電池に対する期待、需要は間違いなく高まっております。関係省庁ならびに関係各位のご指導、ご支援をお願い申し上げますとともに、大きな夢に向けて、会員のますますの発展と、皆様方のご多幸をお祈りし、年頭の挨拶とさせていただきます。

年頭所感

経済産業省商務情報政策局長 豊田 正和

平成18年の新春を迎え、謹んでお喜び申し上げます。

我が国経済は、企業部門と家計部門がともに改善している中、IT業界においては、絶え間ない技術革新と激しい国際競争が続いており、サービス産業においては、我が国の経済のサービス化・ソフト化が進展する中で、その重要性が益々増大しております。

本年も、商務情報政策局といたしましては、情報産業及びサービス産業の活力の維持及び強化に取り組むとともに、IT技術の戦略的活用や新サービスの創造を通してより豊かな国民生活を実現してまいります。

本年は、小泉総理を本部長とするIT戦略本部が、ITによる日本の改革の完成を目指して、新たなIT戦略を策定いたします。この目標実現に向け、当分は以下の三つの柱を軸に、新たな施策に取り組めます。

第一に、ITの戦略的活用の促進による産業競争力の強化を目指します。具体的には、平成15年度に創設されたIT投資促進税制を刷新し、情報セキュリティを確保しつつ、ITユーザー産業の国際競争力を強化するため「産業競争力のための情報基盤強化税制」を新設いたします。

第二に、IT産業の競争力を強化するため、戦略的な技術開発を推進するとともに、ネットワーク家電等の利用の枠組みや技術の共通化・標準化を図ります。

また、産学官の連携推進によるソフトウェアの生産性・信頼性の向上を図るため、昨年8月に設置した情報サービス・ソフトウェア小委員会での議論を踏まえ、本年は具体的な施策を展開してまいりたいと考えています。

第三に、昨今、個人情報の漏えい、オンラインの消費者取引での被害などが発生している中で、誰もが安心してITを利用できる環境の整備、情報セキュリティ対策を行うため、昨年10月に設置した商務情報政策基本問題小委員会での議論を踏まえ、安全・安心な情報経済社会の実現に向けた行動計画を策定してまいります。

サービス産業については、「新産業創造戦略」において明確にされた4つの重要なサービス分野の健全な発展、競争力ある発展を支援してまいります。

健康医療サービス分野においては、医療制度改革



大綱等に従い、医療の情報化や遠隔医療、画期的な医療機器の開発を厚生労働省と連携して推進してまいります。

集客交流サービス分野等においては、ITの利活用、産学連携、ブランド構築などを通じた新たなビジネスモデルの創出支援に取り組んでまいります。

ビジネス支援サービス分野においては、キャリアアップ教育体制の整備や、高度な技術力・指導力を有する熟年者やポストクの人々が産業界の競争力向上に資する仕組の検討を深めてまいります。

コンテンツ分野については、昨年10月、アジア地域の担当大臣によるアジアコンテンツセミナーを主催し、共同声明を発表いたしました。本年も引き続き、東京国際映画祭の開催や国際共同製作の促進による海外展開支援、海賊版対策等の環境整備を行い、コンテンツ産業の振興と日本文化の海外発信に貢献してまいります。

さらに、我が国の国際競争力を品格競争力という視点から強化するため、伝統的なデザインや機能・コンテンツを現代の生活に相応しいよう再提言する「新日本様式 (Japanesque * Modern)」という新ブランドの確立・普及を目指す「新日本様式」協議会が1月28日に設立されます。この協議会の活動を文化庁・外務省と共に支援してまいります。

本年は、情報産業とサービス産業の連携の強化が一層進展し、自らの競争力のみならず、他産業の競争力強化に貢献していくことが可能であることを示す年になることを期待したいと思います。

最後になりましたが、皆様方の御健勝と更なる御活躍を祈念いたしまして、私の新年の挨拶とさせていただきます。

平成18年 元旦

『2005プロ野球最優秀バッテリー賞』表彰式

今年で15回目を迎えた電池工業会とスポーツニッポン新聞社の共催による『2005プロ野球最優秀バッテリー賞』の表彰式を、12月6日 東京プリンスホテルで行いました。

パ・リーグからは、31年振り日本一となった「千葉ロッテマリーンズ」の渡辺 俊介投手、里崎 智也捕手が、セ・リーグからは「阪神タイガース」の、プロ野球新記録となる80試合に登板した藤川 球児投手、矢野 輝弘捕手の両バッテリーが受賞しました。

石田 徹 電池工業会 会長から各選手に賞金100万円と、副賞としてカーバッテリー、アルカリ乾電池一年分が、白根 邦男 スポーツニッポン新聞社 代表取締役社長から表彰額が各々贈られました。

来賓の根来 泰周 コミッショナーから、「『バッテリー賞』というユニークな賞は、選手の間でも大きな表彰ターゲットになっており、今後も続けてほしい」とのご挨拶をいただきました。

表彰式に引き継ぎ、評論家の豊田 泰光氏などによる受賞選手選考過程の説明や選手へのインタビューなどが行われました。表彰式では、司会者にTBSアナウンサー 高島 百合子さんを迎え、約380名の招待者があり、終始にぎやかな雰囲気でした。また、アシスタント役で「ミス日本」ミス日本「海の日」を迎え会場に華を添えました。



この模様はテレビや新聞でも紹介され、『バッテリー賞』の人気の高さが伺えました。

また、「プロ野球最優秀バッテリー」を当てるクイズの応募総数は8,210通、正解数は115通でした。薄葉 里志様、鈴木 征一様、西片 博様の3名の方には10万円分の旅行券、根本 光敏様他99名の方には、4選手のオリジナルデザインのクオカード（1,000円分）を贈らせていただきました。



『電池の日』 アルカリ乾電池寄贈の礼状紹介

昨年11月11日「電池の日」に、中央共同基金会通过して、アルカリ乾電池30,000本を全国265箇所の福祉施設に寄贈いたしました。

また、アルカリ乾電池をご提供くださいました電池工業会 会員会社殿に、この場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。

- ・ 寄付会社一覧：(株)エスアイアイ・マイクロパーツ、FDK(株)、三洋電機(株)、(株)ジーエス・ユアサコーポレーション、ソニー(株)、東芝電池(株)、日立マクセル(株)、(株)日立リビングサプライ、富士フィルムイメージング(株)、松下電池工業(株)、(株)三菱電機ライフネットワーク

この寄贈に対して電池工業会に寄せられました、礼状の一部を抜粋して紹介させていただきます。

・ 咽頭摘出者団体 新声会 会長 香川 孝一

この度、(社)岡山県共同基金会通过し例年のように単三アルカリ乾電池を沢山にご寄贈いただき、誠に有難うございます。

私ども新声会は、咽頭癌・食道癌等で咽頭、声帯を全摘し音声言語機能を喪失した同病者が集う団体です。声をなくした患者のために、「第二の声」として食道の粘膜を震わせて声を出す食道発声という発声方法を先輩ボランティアの指導のもと勉強しています。

この方法で、何とか会話ができるようになり、社会復帰ができません。そのために、ハンディタイプの「音声拡大装置ビバボイス」を使用しています。

この器具には、アルカリ単三乾電池が4個必要です。熱心に話をする人はすぐ電池の交換が必要ですので、貴会からご寄贈いただく電池をみんな頼りにしています。

本当に助かっています。

約180名の会員を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。

・ 社会福祉法人 児童養護施設 救世軍 愛光園 児童



「蓄電池設備整備資格者講習」の修了考査合格者(鹿児島県・東京都 開催分)

弊電池工業会は、平成17年11月8日～9日に鹿児島県で、11月16日～17日には東京都において「蓄電池設備整備資格者講習」を開催いたしました。この会場の講習で修了考査に合格した方々は以下の通りです。

おめでとうございます。

尚、合格通知は直接、ご本人に通知いたしました。

この講習会の合格者数と合格率は、鹿児島県：20名（90.9%）、東京都：155名（92.8%）という高い結果となりました。

敬称略

<鹿児島県>

樋口淳一・鬼塚 修・須和靖博・中村修治・山口正彦・横山史明・石山明彦・白沢康美・才田勇治・坂口勝悟・有留時春・二俣裕二・猪股靖司・野口智子・瀧脇眞志・今坂 寛・伊地知禎信・秋永一昭・栗山達朗・満尾和美

<東京都>

阿部 誠・加藤孝士・栗原 正・飯伏 明・南 広行・出口貴志・伊藤寛治・福沢公秀・難波 剛・田中秀幸・田口聖有・木内 弘・柄澤 浩・伊能靖亨・植園裕次・高山尚也・原 茂一・相原伸治・長田 誠・竹ノ内實・横野登司夫・後藤陽一・須藤博之・長坂五三夫・廣瀬 喬・高橋英彦・宮本信勇・悦喜靖昭・樋口高明・石川和宏・宮内 誠・藤田博昭・杉本喜一郎・阿部宏一・豊田 繁・

柳平 隆・増田 誠・笠田直也・佐藤利晴・内田善康・岩井川幹夫・山口弘輝・柴田茂幸・山本清治・荒木 博・手塚勝衛・上田賢二・梅津将徳・横山伸一・井上 寛・渡邊潔・高水幸夫・山崎 操・星野徳義・山崎義明・永澤大祐・高橋達也・石井昭弘・菊地武・川島英二・石川宏幸・播田実英明・長澤友和・折井俊一郎・柳田 徹・高橋良平・高畑真樹・後藤博章・山口勝巳・追分 学・新戸敏行・福山繁夫・浜崎俊嗣・経澤卓巳・原光一・盛 隆・飯島 宏・小島 隆・小平智彦・加瀬 潤・岡村 徹・前田 功・牧野博昭・杉本佳行・山崎英則・瀬戸正幸・松村美昭・中村伸之・太田和宏・飯島慎也・飯島政明・大沼 守・武山英浩・松崎瑠美子・鈴木成幸・富沢直幸・山口雅博・関根英樹・石田勝啓・鈴木英治・森 聡・曾根原健夫・三ツ橋広成・渡部幸司・長谷川恭隆・今村公俊・木下雅紀・石川勝一郎・中山 崇・斉藤浩・寿田範廣・谷内陽介・松沼由明・伊井春雄・秋元敏行・間々田 賢・河合美彦・門脇久禎・岡崎浩幸・浦本恵一・関 貴允・中田裕之・佐藤賢一・中田 修・菅野宏人・金澤信行・横山淳一・木村孝男・山本 功・熊谷俊伸・高見弘幸・宮下 進・伊藤 勇・金子真之・佐藤正彦・町田正久・千葉 毅・高梨雅史・志賀 将・中島慶太・大澤康隆・荒井薫・浅田慎哉・岩本光正・近藤晴男・上原栄治・佐藤 太・永井雅行・石坂昌彦・松田孝彦・鈴木 覚・矢島征一・木村秀一・隅田壮一郎・佐藤 清

先月号に続きEU（欧州連合）環境規制についてお話しします。

・REACH（化学品の登録、評価、認可に関する規制法案）

本年11月17日 欧州議会は事業者に対して化学物質の登録や評価などを義務づける新規制法案（REACH）を可決しました。加盟国は年内合意を目指しており、成立に向けて前進しています。

EU内で生産、輸入される約3万の物質が規制の対象で、人体に危険な物質は、可能な場合、安全な物質で代用することも義務づけています。

法案は、規制強化に反対する日米政府や産業界などの反発を受けて、使用量が少ない物質については負担を軽減するなど修正されています。

・EU電池指令

前回お話ししましたRoHS、WEEEとの関係ですが、RoHSについては、電池および蓄電池に関する電池指令を侵すことなく適用されます。WEEEでは、電池は分別回収された機器から取り除かねばならない。取り外された時点で電池指令が適用されます。

主な内容（第二読会案）は、①対象は軍事、宇宙用を除く全電池 ②カドミ（携帯形電池に適用）20ppm 水銀5ppm 以上を含む電池の販売禁止 ただし、以下の適用除外があります。水銀重量比で2%以下のボタン電池、携帯形電池のカドミは非常用照明を含む緊急警報システム、医療用機器、コードレス電動工具（コードレス電動工具については、4年後に見直しあり） ③対象電池にクロズドアウトダストピンと含有重金属の化学記号および電池容量の表示 ④回収の対象は全電池 ⑤携帯形電池の回収目標は、指令発効後6年以内に25%、10年以内に45% ⑥指令発効後5年以内に鉛電池：65% ニカド電池：75% 他電池55%のリサイクル率を達成 なお、鉛とカドミはリサイクル後電池材料として使用されること（クロズドループ）などが定められています。

②に書かれています携帯形とは、1) シールされていること 2) 手で持ち運びできること 3) 産業用でも自動車用でもないこと 4) 組電池を含む ことです。

この第二読会案が理事会で審議され、承認となれば、新EU電池指令の発効となります。

平成17年12月度の電池工業会活動概要

部会	開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議・他	6日(火)	蓄電池設備整備資格者講習実施委員会	鹿児島県と東京都で開催した修了考査の審議と合否判定
	6日(火)	2005プロ野球最優秀バッテリー賞	スポーツニッポンと共催で、東京プリンスホテルにて開催
	6日(火)	広報総合委員会	「でんちフェスタ」反省会と来期計画の検討
	16日(金)	新種電池研究会	ISE釜山会議纏め、新種電池綱領審議他
	21日(水)	WG、A、B、C合同研究会	概要説明会
	27日(火)	蓄電池設備整備資格者講習実施委員会	神奈川県で開催した修了考査の審議と合否判定
二次電池部会	2日(金)	用語分科会	SBA規格の新JIS様式対応方針審議
	6日(火)	二次電池部会	小形シール電池の自主統計、中古電池輸出、リユース等の審議
	7日(水)	二次PL委員会	電池焼損の国土交通省中間報告
	8日(木)	産業用電池リサイクル委員会	産業用電池リサイクルスキームの検討
	9日(金)	電源システム標準化委員会	SBAS0903 据置キュービクル改正案の審議他、IEC規格進捗報告
	12日(月)	電気車用電池リサイクル分科会	電気車用電池リサイクルスキームの検討
	13日(火)	電気車鉛分科会	標準化委員会用最終案の審議、次年度計画の審議他。
	16日(金)	自動車用鉛蓄電池標準化委員会	SBAS0101アイドリングストップ用鉛蓄電池制定の審議他
	19日(月)	JARI活動	EV車両審議会、助成金ルール見直し
	20日(火)	技術サービス分科会	東京消防庁との技術交流会
	21日(水)	アルカリ据置分科会	石油学会回答案の審議、次年度計画審議他
	22日(木)	据置鉛分科会	SBA規格改正、石油学会設備維持規格内容審議他
	22日(木)	産電技サ分科会	蓄電池設備の劣化診断指針(SBAG0606)の見直し
	26日(月)	石油学会規格作成WG	設備維持規格化の審議
	27日(火)	EV鉛分科会JARI打合せ	JARI標準化委員会打合せ
	小形二次電池部会	9日(金)	工場環境委員会
14日(水)		H17第3回部会開催	各委員長による進捗状況報告他
20日(火)		ニカド・ニッケル水素技術分科会	JIS C 8708,来期計画など審議
21日(水)		Li二次電池技術分科会	来期計画審議他
一次電池部会	22日(木)	業務委員会	11月度販売状況の検討及び動態確認、海外生産分の確認。
	2日(金)	JIS/IEC小委員会Li-WG合同	JIS C 8514、ウォッチ用Li二次電池、Li梱包マニュアル審議他
	16日(金)	H17第4回部会開催	自治体調査の進め方について議論、表示に関する報告、各委員長による進捗状況報告

マクセルの乾電池が新JIS マーク認証を 電気・電子機器業界で初めて※取得

日立マクセル株式会社

日立マクセル株式会社（社長：赤井紀男）は、大阪事業所（所在地：大阪府茨木市丑寅）で生産するアルカリ乾電池において、登録認証機関である財団法人日本品質保証機構（理事長：上田全宏）より、新JIS マークの認証を2005年12月14日に取得いたしました。電池業界はもとより、電気・電子機器業界においても初めての認証取得となります。

2004年6月改正の工業標準化法に基づいて、2005年10月1日に施行された新JIS マーク表示制度の主なポイントは、工場認証から製品認証への転換にあります。従来は、工場の品質レベルや管理体制が審査の主眼とされ、認証を取得すればその工場で作られる全ての製品にJIS マークを付けることができたのに対し、新JIS マーク表示制度では工場認証だけでなく、生産する製品そのものの性能・品質まで厳しい審査がなされます。また、国際的な整合性にも配慮した認証を行うこととされ、必要に応じて国が立入検査を行うなど制度の信頼性が確保される体制へと転換しています。

これまでマクセルは、性能とともに高信頼性の製品を提供することに注力してきましたが、製品品質が評価される新JIS マーク表示制度に対してもいち早く取り組み、このたび認証を取得するに至りました。

品質に対する社会の評価は、以前にも増して厳しくなっていくものと予想されます。マクセルは今回の新JIS マークの認証取得とあわせ、これからも「モノづくり」の基本に則り、お客様に安心して使用いただける高い性能と品質を持つアルカリ乾電池を提供できるよう尽力してまいります。

※ 2005年12月現在。電気・電子機器業界において。マクセル調べ。

《認証番号》 JQ0505001

《JIS規格》 JIS C8511（アルカリ一次電池）

《認証日》 2005年12月14日

《認証の区分》 アルカリ一次電池

《対象商品》 大阪事業所で生産するアルカリ乾電池

正確なバッテリー残量表示を実現 フラッシュメモリ内蔵16ビットマイコン開発

三洋電機

三洋電機株式会社はこのほど、ノートPC向け、SBS (Smart Battery Data Specification) v1.1に準拠したスマートバッテリーシステムにも対応し、その他、バッテリー搭載機器のバッテリー残量を正確に計算し、表示するのに最適な、フラッシュメモリ内蔵16ビットマイコンLC88F0348Aを開発いたしました。サンプル出荷は2005年12月初です。

1. 概要

リチウムイオン電池やニッケル水素電池等、二次バッテリーの高性能化によりバッテリーを電源とする機器の普及が急速に拡大しつつあります。こうした機器を利用する上で、正確なバッテリーの残量表示は機器の使い勝手を左右する重要な要素と言えます。

新開発のフラッシュメモリ内蔵16ビットマイコンLC88F0348Aは、SMBus 1.1 with PEC対応回路、積算型電流検出回路、過電流検知回路、高精度12-bit A/Dコンバータなど、電池の正確な残量計算に必要な機能を持ち、MSOP24 (5.2×6.3mm) 小型パッケージに搭載したことにより、2直~4直のリチウムイオン電池及び、多直のニッケル水素のバッテリーパック側に搭載して、ノートPC、DSC、カムコーダ、電動自転車などの正確な電池残量の計算、表示を行うことを可能とします。

2. 特長

- ① 二次バッテリーの正確なバッテリー残量を表示することができます
- ② MSOP24の小型パッケージ搭載により、DSC等の小型モバイル機器用バッテリーパック搭載も容易です
- ③ 充実したプログラム開発環境を備えております
- ④ フラッシュメモリ内蔵のため機器実装後のプログラム書き換えが可能です

10月度電池および器具販売実績（経済産業省機械統計）

（2005年10月）

単位：数量、千個、金額、百万円

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	544,243	59,232	105%	100%	4,936,132	571,185	99%	100%
全電池合計	543,431	58,096	105%	100%	4,927,705	559,989	99%	100%
一次電池計	401,522	13,109	106%	104%	3,551,888	114,724	96%	96%
マンガン乾電池	59,380	944	78%	69%	567,157	9,177	81%	75%
アルカリ乾電池計	124,755	6,036	104%	97%	1,009,874	50,242	99%	96%
単 三	70,471	2,873	104%	101%	560,623	23,880	94%	93%
単 四	34,484	1,487	125%	122%	280,212	11,858	116%	109%
その他	19,800	1,676	82%	77%	169,039	14,504	93%	92%
酸化銀電池	83,595	911	107%	105%	798,047	8,634	95%	95%
リチウム電池	103,369	3,656	110%	100%	978,713	35,952	98%	92%
その他の乾電池	30,423	1,562	289%	294%	198,097	10,719	159%	158%
二次電池計	141,909	44,987	104%	99%	1,375,817	445,265	105%	101%
鉛電池計	3,242	10,290	102%	90%	32,037	106,682	101%	98%
自動車用	2,094	5,974	101%	94%	20,292	57,871	100%	97%
二輪用	333	675	108%	91%	3,270	6,720	99%	92%
小形制御弁式	564	614	91%	76%	5,993	7,299	98%	98%
その他	251	3,027	131%	86%	2,482	34,792	116%	101%
アルカリ電池計	49,626	9,130	83%	97%	593,241	101,405	99%	109%
完全密閉式	25,382	2,766	74%	72%	325,160	35,509	97%	99%
ニッケル水素	24,238	6,205	95%	115%	267,956	63,456	102%	118%
その他のアルカリ電池	6	159	75%	76%	125	2,440	90%	79%
リチウムイオン電池	89,041	25,567	121%	104%	750,539	237,178	111%	99%
器具計（自主統計）	812	1,136	85%	93%	8,427	11,196	100%	100%
携帯電灯	502	425	80%	84%	4,869	4,075	113%	120%
電池器具	310	711	93%	99%	3,558	7,121	87%	92%

10月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2005年10月）

単位：数量、千個、金額、百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	299,911	31,156	104%	101%	2,779,639	283,733	98%	100%
一次電池計	163,159	2,959	102%	96%	1,487,729	26,726	92%	92%
マンガン	45,563	618	109%	161%	377,575	4,240	88%	114%
アルカリ	26,039	493	111%	95%	213,148	3,774	105%	92%
酸化銀	43,425	456	115%	107%	387,719	4,227	104%	102%
リチウム	45,997	1,352	85%	79%	484,519	13,987	83%	86%
空気亜鉛	1,979	30	118%	107%	21,353	339	103%	104%
その他の一次	156	11	40%	53%	3,416	158	41%	42%
二次電池計	136,753	28,196	106%	102%	1,291,909	257,007	106%	101%
鉛蓄電池	546	571	232%	112%	5,385	8,100	236%	141%
ニカド	21,445	1,927	76%	82%	289,520	25,122	103%	109%
ニッケル鉄	0	0	200%	101%	0	2	1%	13%
ニッケル水素	13,988	2,396	109%	133%	159,205	26,134	115%	144%
リチウムイオン	82,597	20,357	124%	105%	662,616	170,152	111%	96%
その他の二次	18,177	2,944	85%	80%	175,184	27,497	86%	89%
全電池合計（輸 入）	70,965	6,619	121%	136%	616,396	64,881	107%	123%
一次電池計	61,482	1,224	117%	103%	523,672	11,116	103%	92%
マンガン	10,091	133	85%	90%	109,110	1,260	97%	92%
アルカリ	41,170	617	119%	92%	323,187	4,974	97%	88%
酸化銀	223	5	53%	61%	2,011	46	76%	85%
リチウム	6,040	159	224%	92%	39,791	2,237	227%	159%
空気亜鉛	1,217	36	85%	142%	9,696	260	110%	128%
その他の一次	2,741	275	180%	168%	39,876	2,338	124%	70%
二次電池計	9,483	5,394	153%	146%	92,724	53,765	128%	132%
鉛蓄電池	778	1,698	113%	106%	6,909	16,200	112%	112%
ニカド	2,029	406	87%	111%	18,693	3,989	75%	86%
ニッケル鉄	22	24	7247%	1794%	152	266	114%	112%
その他の二次	6,655	3,266	210%	189%	66,970	33,310	162%	157%